

■スペイン：スペインの卸電力市場、年末年始にかけてゼロ価格が続く

スペインの卸電力市場（プール）では、2009年12月28日～2010年1月15日にかけて、早朝を中心に市場価格がゼロとなる時間帯が続いた。ゼロ時間帯の時間数は合計82時間。とりわけ年末年始の12月31日には12時間（3時～10時、14時～19時）、1月1日には19時間（2時～19時）にわたってゼロとなった。ゼロ価格はこれまでも時々発生しているが、長時間にわたってこのような価格が付いたのは初めて。プールでは、入札された電源を安いものから順に落札し、需要と供給が均衡する点（最後に落札された電源の価格）で市場価格が決定される仕組みとなっており、落札されれば市場価格で支払いを受け取ることができる。このため運転を一時停止するのが不可能な原子力や風力は、落札を目的にゼロ価格で入札する傾向がある。今回、ゼロ価格時間帯が続いたのは、風力発電量が急増する一方、需要が想定需要を大幅に下回り、ゼロ価格で入札されたプラントだけで需要を満たしてしまったためである。スペインでは、風力発電量の伸びが大きく、風力発電出力の総電力需要に占める割合は、2009年11月8日に53%、同年12月30日に54.1%、2010年1月14日に42%を記録、また、1月1日には、系統運用上の理由で、風力400万kWに対して運転の停止が指令されている。